

週報

こひつじ

第40巻 14号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

向きを変えて、出発せよ

向きを変えて、出発せよ。・・・見よ。わたしはその地をあなたがたの手に渡している（申命記 一の七、八）

その一 出発を促す声

「向きを変えて、出発せよ」

だから。

これは、偉大な指導者モーセがアラバの荒野で、イスラエルのすべての民に告げたことばである。彼らはユダヤ教がおこる数百年前、前方には彼らが所有すべき約束の地が広がっていた。

私たちの人生においても、向きを変えて、出発すべきときがあるのではないか。

クリスチャンにとって「出発」という言葉ほど重要な意味をもつものはない。クリスチャンとは、実に、出発した人のことをいうの

たのだろうか。

彼にきわだつた点があるとすれば何か。つまり彼の独創は何か。

それは彼が「出発した人であった」ということだ。

創世記は言う。

「アブラムは主がお告げになったとおりに出かけた」（創世記 一二の四）

へブル書は言う。

「出て行けとの召しを受けたとき、これに従い、どこに行くのかを知らないで、出て行きました」（へブル 一二の八）

どこを読んでも、まず彼について書かれているのは、「彼が出て行った」ということだ。

人はさまざまな動機で出発する。進学や就職、結婚のために家を出る。都会に夢を抱いて家を出る。

よりよい経済的環境を求めて家を出る。しかしアブラハムの出発の動機は、それらのどれとも違っていた。

ではどんな出発だったのか。彼はメソポタミア地方にいた。そこは華やかな文明の中心地だった。しかし、何時の頃からか、彼の心に不安があった。

この場所にずっといてもいいの

か。世間の享樂的な生き方に流されるままでいいの。

その声は次第に彼のうちに大きくなり、やがて一つの大きな行動へと彼を促したのである。

それがアブラハムの出発だった。人はみな、その声を聞く。ときには人生の早い時期に。

あのシュバイツァーもそうだった。彼は書いている。

「わたしはひじょうに幸福な少年時代を過ごしましたが、・・・この幸福をあたりまえのこととして受け取る権利をもっているのだろうかという疑問が、だんだんとはっきりとわたくしのまえに広がってきました」

その思いは、去ったかと思うとまたやって来た。しかし、地平線上に浮かぶ一片の小さい雲が、し

だいにその色を濃くし、ゆるやかではあるが、ふせぐことのできな

いほどに広がって、すっかり空をおおってしまうように、ついにその思いが、ある日、彼の心を占領するに至るのである。

それは二一歳のときだった。それとも苦しむことを選び取りました」と。

「三〇歳までは、学問と芸術に生きる事がゆるされよう。それから後は、奉仕の道に進むのだ」

こうして彼は、音楽家、哲学者、神学者としての名声を捨てて、アフリカにゆくのである。

モーセにも、何回か、そういう出発があった。

モーセは幼いときに川に流されたが、エジプトの王女によって拾われ、王子として育てられる。しかし、四〇歳のときに、自分が奴隷で苦しむユダヤ人の子だと知ると、彼の心に戦いが始まるのである。

「向きを変えて、出発せよ」
神の民の特徴とは、出発する民であるということだ。クリスチャンも同じである。(続)

今日の礼拝

第一礼拝は午前一〇時から、第二礼拝は午前一一時から。

何の抵抗もしないでいいのか。その声は迫ってきた。やがてその声に促されて、彼は自分の地位を捨て、大きな出発をする。聖書

○説教は米村牧師。

先週の礼拝

「信仰によって、モーセは成人したとき、パロの娘の子と呼ばれることを拒み、はかない罪の楽しみを受けるよりは、むしろ神の民とら、宮元隆博さんが、試練の意義

○司会は西岡潤也さん、奏楽は西岡なおみさん。

二〇年も前でしようか、カナダのトロントで行なわれた日系人のクリスチャン修養会に招かれたことがあります。そこで出会った裕子さんという方は、アメリカの大学の大学院を卒業後、医師の方と結婚して、今は、東京に住んでおられます。最近、こんな便りをいただきました。

試練は、決して喜べるものではないが、私たちが祈りへ向かわせてくれるとのことでしたが、それは、人生でもっとも大切なことではないかと思えます。

○第二礼拝では、東京から熊本に転動してこられた野口裕治さんの挨拶がありました。

先週の出席

夫が医師で、コロナ禍で忙しくしていたため、送られた週報をよく読まないでいたのでしょう。最近また読み直していたら、先生の説教が動画配信されていることを知りました。二〇二〇年に遡って

○第一礼拝が四九名、第二が五二名、合計一〇一名(男四〇、女六一)。それに子どもが一名、合わせて一二二名でした。

バーベキュー交流会

四月七日の礼拝後、コロナ禍で長い間できないでしたが、久しぶりのバーベキュー交流会が開催されました。雨もあがり、野外での交わりは格別でした。参加者は七一名。

最近忙しくて、教会に行けな教会の礼拝に参加でき、遠いはずの熊本を近くに感じています。

津島裕子

牧師身辺

○米村牧師のメールアドレス。
yonemura@ja2.so-net.ne.jp